

平成 30 年度第 2 回理事会開催

－ 賦課金等の 20% 減額請求措置、31 年度も継続 －

当協会平成 30 年度第 2 回理事会が去る 10 月 25 日、KKR ホテル東京において開催された。前田会長があいさつを行った後、議長に就任して審議が行われた結果、上程された各議案はすべて原案通り承認された。

第 1 号議案『平成 30 年度上半期業務報告、収支計算報告』では、(1) 東京港における 30 年度上半期の輸入貨物の取扱数量は 111 万トン（検査・重量ベース）、前年度比 0.6% の微増であった。本船貨物では果実の主力であるバナナは対前年度比 7.5% と増加、パイナップルは 30.9% の大幅増、GF は 25.5%、オレンジは 11.3%、レモンは 18.3% のそれぞれ減少となった。キーウィフルーツは 7.0% ほど増加した。本船小麦は 22.9% の大幅減となった。一方、コンテナ貨物は 1,457 本増加して、424 百本弱であった。好調だった乾牧草はライグラスヘイとアルファルファヘイは増加したが、その他は大きく減少し全体としては 268 本ほど減少した。野菜は対前年比約 660 本の増加で約 8,890 本であった。主力の玉ねぎは産地高の影響で 250 本ほど減少したが、ナガネギ 160 本、ニンジン 159 本、キャベツ 145 本と大きく増加した。果実は全体で 172 本の減少となった。かんきつ類は本船貨物同様に軒並み減少した。一方アボカドが 66 本、キーウィフルーツが 48 本増加した。穀類ではコメが 185 本の大幅減だったが、ソバの 98 本増加等で全体では 66 本増加した。大豆が 1,212 本、ラッカセイが 167 本の増加と豆類全体で 1,439 本増加した。(2) 輸出用木材こん包材消毒証明件数は 1,452 件で、前年から 104 件減少した。

(3) マイマイガ不在証明事業については、検査・証明書の発行実績は無かった。(4) 25 年 6 月から賦課金、立会料の 20% 減額請求を続けており 6 年目となっている。本年度の上半期の賦課金等収入は 8,474 万円（減額の金額 2,021 万円）と前年同期比 2.7% 増で、通年予算の 55.5% となり、見込みより好調であった。(5) 9 月 21 日、東京ベイ有明ワシントンホテルにおいて来賓・会員など関係者約 230 名出席の下、「創立 50 周年記念式典及び祝賀会」を挙行了。本式典の席上、記念表彰が行われたほか、記念誌等を全会員及び関係者に配布した。(6) 職員の資質向上と、業務への的確な対応のため、職員を各種研修会、説明会等に積極的に参加させた。(7) 広報活動では、「東京植検だより」の発行や植物防疫所、全植検協の機関誌などを配布したほか、新しい検疫情報、現場情報をホームページにより広く関係者に提供した。また、各地

からの数多くの質問、相談などにも適切に対応したほか、必要に応じて関係者との打ち合わせ等を行い、円滑、的確、かつ安全な検疫業務の推進に努めた。(8) 関係当局及び諸団体との連絡・協調を図り、また農水省植物防疫課も参加する「植物検疫関係団体連絡会」に参加し検疫現場の状況報告、問題点提起とともに、検疫情報の早期入手に努めた。(9) 来年度の請求・統計システムの新システムクラウド化稼働に向け、共同開発する横浜植物防疫協会とともに、ソフト開発会社と定期的に打ち合わせをした。

— など本年度の主要事項と収支状況について報告が行われ、本案は異議無く承認された。

第 2 号議案「賦課金等の減額請求措置の平成 31 年度の取扱いについて」(1) 平成 15 年 6 月から賦課金・立会料（輸出こん包材の消毒証明料を除く。）の減額請求を実施しており、25 年度からは 20% 減額となっている。本措置の次年度における取扱いについては、毎年、年度前半の業務量及び収支状況などを勘案して、秋の定例理事会において協議することとされている。(2) 上半期の取扱業務量は前年同期比 0.6% 増で、主力のコンテナ貨物が見込みより好調であり、下半期によほどの激減が無い限り、通年の賦課金等収入も見込み以上と思われる。(3) 一方、支出は管理費を抑制気味とするよう努めることとし、その結果下半期には特定預金支出があるが、本年度の通年収支の差引額は、予算見込みより 800 万円プラスの 1500 万円の赤字になると思われる。この結果、平成 30 年度末の平成 31 年度への繰越額は 172 百万円程度と見込まれる。

(4) この繰越額から観ると、平成 31 年度も減額率 20% を継続したとしても、1 年間の減額額は 30 百万円程度であるので、輸入状況の激変がない限り、平成 31 年度末の繰越額は、資金運用上問題がないといわれる 100 百万円を越える、140 百万円程度となる。これは更に 1~2 年は 20% の減額請求を継続することが可能であり、平成 31 年度も減額率 20% 請求措置を継続することとしたい。

第 3 号議案「専務理事の交替について」(1) 川口専務理事は本年 6 月が常勤役員の定年である満 65 才であったが、これまでの理事会にて、「後任の選任及び折衝については会長に一任し、当面の間は同専務理事にその職を継続させる」となっていた。(2) この度、公認候補者として本年 3 月に横浜植物防疫所長を退職した小野仁氏を選任し折衝した結果、当協会への就職の内諾を得て、8

月に「総務グループ参与」として採用した。(3) については、本日の理事会において「11月1日から川口の後任として小野氏を理事とし、同日に専務理事として選任する」とのことで承認を得たい。なお、小野氏の専務理事としての報酬は、現専務理事と同額の年額840万円とする。

(4) 以上の手続きの上、川口専務理事は10月31日付けで退任させ、11月1日付けで「顧問」を委嘱し、その任期については、会長に一任することにしたい。との説明が事務局からなされ、異議なく承認された。

第4号議案「川口専務理事の退職慰労金について」

川口嘉久氏は10月31日付けをもって、専務理事を退任することになっている。同氏は平成26年5月に当協会に入り同年6月1日に専務理事に就任し、以来4年5ヶ月に亘って事務局を取りまとめ、指揮し、各代の会長の補佐役として活躍された。特にその間、事務所の移転、本年9月の50周年記念事業の遂行に尽力された。また協会の資産管理の厳密化を推進し、協会運営の健全化、安定化に大きく貢献された。よってその功労に対し、退職慰労金を支給することとしたい。

(注) 支給額は「職員退職金支給規定」の支給率を準用。支給の時期は本理事会で承認された場合、11月に支給。との説明が事務局よりなされ、異議なく承認された。

報告事項 (1) 「創立50周年記念事業について」

当協会の創立50周年記念式典及び記念祝賀会を9月21日(金)、東京都江東区の東京ベイ有明ワシントンホテルにおいて、会員、来賓、招待者等約230名出席のもと開催した。

16時から開催された記念式典では、会長の式辞に続いて農林水産省消費・安全局植物防疫課防疫対策室長、横浜植物防疫所長から祝辞が述べられ、引き続いて横浜植物防疫所長の感謝状(個人11名、団体1)の授与及び当協会会長から永年勤続職員(40年1名、30年2名、20年1名、10年3名)に表彰状の授与が行われた。

記念式典終了後、17時から祝賀会を開催した。

また、記念事業として編纂した記念誌を全会員、関係者に、記念品を出席者に配付した。

記念事業に要した費用の詳細は、現時点で以下のとおりである。なお、理事会において残額については、会員へのサービス向上の一環として、職場環境の改善のための備品等の購入に充てては、との提案がなされ事務局で検討することとした。内容については、次回の理事会、総会で報告する。

創立50周年記念事業関係収支

1. 収入

記念行事費積立預金支出

平成25年度	200万円	平成26年度	100万円
平成27年度	100万円	平成28年度	100万円
平成29年度	200万円	平成30年度	300万円
		計	1,000万円

2. 費用概算

(1) 式典及び表彰、記念品等	約250万円
(2) 祝賀会	約300万円
(3) 記念誌	約150万円
(4) その他	200万円
	約900万円

3. 支出

記念式典一式	1,056,404円
表彰者記念品(11名)	330,000円
記念品代	486,000円
祝賀会一式	2,160,400円
50周年記念式次第	88,560円
50周年記念誌	1,355,400円
その他(胸章、送料他)	110,008円
合計	5,586,772円

(平成30年10月25日現在)

(西村 治朗)

植物検疫くん蒸安全旬間を実施

11月1日から11月10日まで「植物検疫くん蒸安全旬間」が実施された。本旬間は、くん蒸倉庫の施設所有者と実際の消毒作業に携わる防除業者、消毒に立会う当協会と三者で農薬を使用する植物検疫くん蒸が安全かつ的確に実施されるように自主啓発期間として設けられたものである。

東京港において植物検疫くん蒸で使用される主な農薬は青酸ガス、臭化メチル、リン化アルミニウム剤の3種類。東京港には植物防疫所指定の消毒施設が13施設あり、消毒実績の有無に係わらず、自主点検を行った。

当協会内においても安全旬間の啓発用ポスターの配布と掲示、ガスマスクの吸収缶の交換を実施。また、当協会ではコンテナ内で積地くん蒸される貨物に対して、検査前の安全確認としてガス検知を行う場合があり、残存ガス検知に使用する器具の点検も実施した。

消毒施設に防除業者と協会職員で訪問し、本旬間の趣旨を理解してもらい、消毒実施時の安全対策などの聞き取りを行った。特に施設側の担当者が変更になっている場合には、検疫くん蒸の安全に対する認識を深める機会としてもらい、今後も安全にくん蒸が行われるように安

会 員 ・ 役 員 の 異 動 (平成30年10月1日～平成30年11月30日)

☆交代役員

11月1日 専務理事 小野 仁 (前任者:川口嘉久)

全管理の徹底を要請した。消毒施設は定温倉庫や一般の貨物を蔵置する倉庫などと同じ敷地内で運用され、不特定多数の人がくん蒸倉庫に隣接した場所で働いている場合が多く、くん蒸実施関係者だけでなく、施設にいる全ての人にくん蒸実施を周知する必要がある。施設巡回には植物防疫官にオブザーバーとして同席を要請し、各施設の消毒周知方法や安全対策などを重点的に確認し報告を受けた。また、今年度で消毒倉庫の指定（3年）が切れることから、継続指定手続きの説明をいただいた。

旬間終了後、防除業者と協会で報告会を開き、点検などの報告やミーティングで提案された注意点や安全対策についての意見交換が行われ、今後とも一層の安全の啓発に努め、植物検疫くん蒸の安全な実施を維持してゆくことを確認し、本旬間を終了した。（大西 洋）

全植検協横浜支部業務研究会に参加して

9月27～28日の2日間、(一社)全国植物検疫協会横浜支部業務研究会が、横浜で開催され参加する機会を得た。



1日目、横浜植物防疫協会・花島陽治会長から歓迎のあいさつがあり、続いて、厚生労働省横浜検疫所食品監視課輸入食品相談指導・中村真寿美室長から、「輸入食品の監視業務について」の講演があった。講演では、食品監視課の主な業務内容、横浜港の輸入が他港と異なり、穀類などの原料が圧倒的に多いこと、相談業務では個人がインターネット経由で売買するための輸入相談が年々増加しているなどの説明を受けた。

次に農林水産省横浜植物防疫所・田邊和男業務部長から「植物検疫を巡る最近の情勢」について説明があった。説明の中には、今年10月1日より、手荷物（携帯品）及び郵便物で輸入される植物類（うこん、アーモンド、ココヤシなど一部の植物を除く）は、検査申請時に輸出国政府機関により発行された検査証明書の添付が義務付けられたこと。貨物についても、今後、検査証明書を要求するもの、しないものを整理するとされ、とても興味深い話を聞くことができた。続いて、横浜植物防疫所・岡辰男統括からの「横浜港、川崎港における植物検疫」の講演では、輸出入の検疫状況の説明を聞くことができた。

2日目は、本牧埠頭 BC コンテナターミナルの見学を行った。施設概要 DVD を視聴し、その後、全天候型検査場を見学した。次に横浜植物防疫所調査研究部の見学を行った。病害虫の標本、線虫検査の方法など、普段目にしないものを見ることができた。

今回、研究会に参加し、貴重な経験を得た。また、各地域協会の方々と情報交換や親睦が和やかに行われ、大変有意義な時間を過ごさせていただいた。

終わりに、本研究会の開催にご尽力され、お世話になりました全植検協横浜支部、関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

（西村 洋一）

タイム eye

業務グループ 大豆輸入量が増加

大豆の輸入量が増加してきている。東京港の平成29年全産地輸入量は150,721ト（前年比113.8%）、コンテナ数7,497本（+959本）と増えており、今年に入っては1月～10月までで158,899ト（同123.6%）、コンテナ数7,855本（+1,460本）と急激に増加し、すでに前年一年分を越えている。主要産地の米国産101,893ト（同118.1%）、カナダ産56,255ト（同139.0%）は、いずれも大きく増加している。

増加理由としては、油糧原料用の大豆は、ナタネの生産減で原料を大豆にシフトした影響や、貿易摩擦による米国から中国への輸出量が減少したことも影響していると考えられるが、コンテナ貨物の大豆は納豆や豆腐などの食糧用で、非遺伝子組み換え大豆（以下NON-GM大豆）であり、それらの直接の影響は考えにくい。

おそらく数年前に起きた米国の記録的干ばつに対応するための在庫確保、各船社の北米航路（PNW）が東京港へ集中し順調に入港したことなどが要因か。

食糧用大豆がNON-GMに片寄っているのは、GM大豆が人体に与える影響について、日本の消費者の心理的不安が取り払われておらず、各メーカーがその不安に対応した状況が続き、GM農産物に対する研究成果に理解が進まないうちは変化が見られないから、と思われる。

2017年の世界のGM農作物の栽培面積は1億8,980万haと前年比3%増え過去最大となっている。大豆の生産は90%以上がGM大豆で占められており、NON-GM大豆の生産割合は年々減少している。GM大豆には特定の除草剤に耐性があり、広大な農地での除草管理が容易となり収穫出来るため生産者からは好まれている。

北米ではNON-GM大豆の生産離れを防ぐため割増金を2年連続で増額し、平成29年は3割アップしたが、今後もコストと手間がかかるNON-GM大豆の生産が増えるかは、対中国絡みも含め先行き不透明だ。

（田地 龍之）

東京港輸入植物品目別統計表

(平成30年1月 - 10月累計)

品目	単位	コンテナ詰			在来船積		合計	
		本数	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量	検査数量	不合格数量
栽植用植物	個	36	2,229,006	1,000	0	0	2,229,006	1,000
栽植用球根類	個	91	18,039,671	0	0	0	18,039,671	0
アマリリス	"	7	73,740	0	0	0	73,740	0
チューリップ	"	1	364,740	0	0	0	364,740	0
ユリ	"	80	16,091,775	0	0	0	16,091,775	0
栽植用種子	kg	330	3,107,774	0	0	0	3,107,774	0
草花・樹木	"	0	1,623	0	0	0	1,623	0
野菜	"	176	692,184	0	0	0	692,184	0
普通・特用作物	"	54	665,624	0	0	0	665,624	0
牧草・芝草	"	83	1,585,572	0	0	0	1,585,572	0
切花、切葉、切枝	個	1,524	249,961,663	6,865,002	0	0	249,961,663	6,865,002
アンスリウム	"	0	6,570	0	0	0	6,570	0
オンシジューム	"	212	10,134,126	240,845	0	0	10,134,126	240,845
キク	"	719	58,965,913	401,840	0	0	58,965,913	401,840
シダ(レザーフアン)	"	98	17,891,700	10,000	0	0	17,891,700	10,000
果実	kg	10,119	178,464,691	12,249,632	248,906,245	182,159,576	427,370,936	194,409,208
オレンジ	"	1,365	19,027,283	65,216	907,911	0	19,935,194	65,216
グレープフルーツ	"	680	13,981,718	631,843	11,750,373	0	25,732,091	631,843
タンジェロ(ミネオラ)	"	378	6,630,652	0	0	0	6,630,652	0
レモン	"	922	22,488,968	416,492	385,952	0	22,874,920	416,492
パイナップル	"	603	11,981,056	1,090,186	24,454,440	21,608,785	36,435,496	22,698,971
バナナ	"	1,322	22,781,946	4,651,990	187,355,352	160,550,791	210,137,298	165,202,781
マンゴウ	"	166	2,334,534	4,115	0	0	2,334,534	4,115
キーウイフルーツ	"	582	9,814,508	0	24,043,174	0	33,857,682	0
ブドウ	"	674	9,947,125	64,063	0	0	9,947,125	64,063
野菜	kg	17,202	328,569,366	2,470,781	94	0	328,569,460	2,470,781
カボチャ	"	544	12,369,583	974,600	0	0	12,369,583	974,600
サヤエンドウ(キヌサヤ)	"	22	165,264	0	0	0	165,264	0
パプリカ	"	166	1,174,283	0	0	0	1,174,283	0
メロン(ハミウリ含む)	"	197	3,373,184	0	0	0	3,373,184	0
キャベツ	"	1,787	35,150,490	79,440	0	0	35,150,490	79,440
セロリ	"	187	3,145,490	233,583	0	0	3,145,490	233,583
ナガネギ	"	2,003	27,375,468	11,870	0	0	27,375,468	11,870
ニンニクの芽	"	64	1,495,293	0	0	0	1,495,293	0
ハクサイ	"	397	6,586,755	357,000	0	0	6,586,755	357,000
ブロッコリー	"	922	8,275,491	434,863	0	0	8,275,491	434,863
レタス	"	702	8,490,408	106,846	0	0	8,490,408	106,846
タマネギ	"	4,389	108,726,660	138,120	0	0	108,726,660	138,120
ニンニク	"	630	9,596,278	36,568	0	0	9,596,278	36,568
アスパラガス	"	29	268,579	24,385	0	0	268,579	24,385
ゴボウ	"	347	8,651,008	0	0	0	8,651,008	0
サトイモ	"	66	1,385,390	0	0	0	1,385,390	0
ショウガ	"	450	9,969,902	10,780	0	0	9,969,902	10,780
ニンジン	"	1,471	39,984,175	25,000	0	0	39,984,175	25,000
こく類	kg	7,975	167,849,170	328,110	175,903,895	0	343,753,065	328,110
オオムギ	"	79	1,717,289	0	0	0	1,717,289	0
エンバク	"	340	7,206,549	0	0	0	7,206,549	0
コムギ	"	416	8,462,784	0	175,903,895	0	184,366,679	0
コメ	"	1,286	24,598,449	0	0	0	24,598,449	0
ソバ	"	218	4,319,041	0	0	0	4,319,041	0
トウモロコシ	"	257	4,692,893	328,110	0	0	4,692,893	328,110
モルト	"	5,245	114,424,478	0	0	0	114,424,478	0
まめ類	kg	8,424	169,913,931	505,901	0	0	169,913,931	505,901
エンドウ	"	79	1,689,209	0	0	0	1,689,209	0
ダイズ	"	7,855	158,899,770	505,576	0	0	158,899,770	505,576
ラッカセイ	"	275	5,644,400	0	0	0	5,644,400	0
嗜好香辛、薬染料、その他食品	kg	3,228	48,036,577	0	0	0	48,036,577	0
カカオ	"	29	439,988	0	0	0	439,988	0
コーヒー	"	113	1,650,019	0	0	0	1,650,019	0
タバコ	"	457	8,415,280	0	0	0	8,415,280	0
アーモンド	"	918	15,133,997	0	0	0	15,133,997	0
クリ	"	33	510,847	0	0	0	510,847	0
クルミ	"	521	8,300,332	0	0	0	8,300,332	0
ポップコーン	"	183	3,600,949	0	0	0	3,600,949	0
油料、肥飼料、その他雑品	kg	23,328	528,649,621	481,708	90	0	528,649,711	481,708
乾燥牧草(ヘイ)	"	17,448	404,892,032	432,059	0	0	404,892,032	432,059
アニマルフィード	"	30	355,716	80	0	0	355,716	80
アルファルファヘイキューブ・ペレット	"	1,352	34,936,194	0	0	0	34,936,194	0
コーンコブミール	"	6	151,200	0	0	0	151,200	0
飼料用大豆カス、ペレット	"	2	40,700	0	0	0	40,700	0
ビートパルプペレット	"	8	201,910	0	0	0	201,910	0
イネワラ	"	131	2,154,566	0	0	0	2,154,566	0
ココピート	"	405	7,284,273	0	0	0	7,284,273	0
ココヤシ園芸資材	"	255	5,550,550	0	0	0	5,550,550	0
ビートモス	"	837	18,205,909	0	0	0	18,205,909	0
ミズゴケ	"	38	94,086	0	0	0	94,086	0
タケ	"	73	1,066,053	0	0	0	1,066,053	0
木材	m³	49	669	0	0	0	669	0
** 総合計 **	kg	70,606	1,424,591,130	16,036,132	424,810,324	182,159,576	1,849,401,454	198,195,708
	個	1,651	270,230,340	6,866,002	0	0	270,230,340	6,866,002
	m³	49	669	0	0	0	669	0

注) 主要品目のみ掲載。携帯品、郵便物及び他港からの荷受分は含めない。